

曇雨天に対する農作物の技術対策

令和3年9月7日
農業技術課

山梨県では、8月12日頃から、前線や低気圧の影響で日照時間の少ない状態が続いています。この状態は、今後1週間程度は続く見込みです。農作物の管理に十分注意してください。

関東甲信地方週間天気予報

令和3年9月7日気象庁発表

向こう一週間は、前線や湿った空気の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨の降る日がありますが、期間の終わりは高気圧に覆われて晴れる日もあるでしょう。最高気温と最低気温はともに、期間のはじめは平年並か平年より低く、かなり低い所もありますが、その後は平年並か平年より高い見込みです。降水量は、平年並でしょう。

1 週間天気予報（9月7日～9月14日）

山梨県中・西部の天気予報（7日先まで）								
2021年09月07日11時 甲府地方気象台 発表								
日付	今日 07日(火)	明日 08日(水)	明後日 09日(木)	10日(金)	11日(土)	12日(日)	13日(月)	14日(火)
山梨県	晴後曇 	曇後一時雨 	曇時々雨 	曇時々晴 	曇 	曇 	晴時々曇 	曇時々晴 
降水確率(%)	-/-/10/20	10/10/30/50	60	30	40	40	20	30
信頼度	-	-	-	B	B	B	A	B
甲府 気温 (℃)	最高	29	28 (26~31)	31 (29~33)	32 (29~34)	31 (29~35)	33 (29~34)	30 (25~33)
	最低	-	18	19 (18~20)	21 (20~23)	22 (20~23)	21 (20~23)	21 (19~22)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
甲府	平年並 11 - 43mm			20.6℃		29.8℃		

2 農作物の技術対策

(1) 果 樹

<共 通>

- ① ほ場が滞水した場合は、速やかに排水する。

<ブドウ>

- ① 棚面の受光条件改善のため、新梢の誘引の見直しを行う。
- ② 同化養分の浪費を防ぎ、食味を向上させるため、旺盛な新梢を摘心したり、伸びている副梢を2～3枚残して摘心する。ただし、邪魔にならない副梢はそのままにしておく。
- ③ 晩腐病の二次感染や裂果からの腐敗を防ぐため、ほ場を巡回し発病果粒や裂果した果粒は速やかに摘粒し、園外へ持ち出すか土中に埋める。
- ④ ベと病やさび病などの発生が心配されるので、成熟～落葉期まで葉を健全に保つため、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。特に、欧州系ブドウでは防除を徹底する。

- ⑤ シャインマスカットや欧州系ブドウへの黒とう病の発生に注意し、発生がある場合は、二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し発病部は速やかに剪除し、園外へ持ち出すとともに、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。

<立木果樹>

- ① 日照不足とともに新梢の徒長により、翌年の結果枝の充実不良が心配される。秋季剪定の時期となるため、樹冠内部や園全体が暗い場合は、徒長枝の除去により明るさを保つ。明るさの目安は、樹冠内部に30%程度の光が入る程度とする。

<モモ>

- ① せん孔細菌病の秋季防除のため、防除マニュアルを参考に薬剤防除を徹底する。なお、秋季防除の前に、病斑のある枝の除去を行うとともに、防除薬剤が樹冠内部まで十分にかかるように、秋季剪定を実施する。

(2) 野菜・花き・水稻

<野菜>

- ① ほ場が滞水した場合は、速やかに排水する。
- ② ナス、トマト、キュウリでは、疫病、うどんこ病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ③ 夏秋ナスでは、着色を促進するため密生部位の枝を抜いたり、下葉の摘葉を行うとともに、葉面散布や追肥等適正な施肥管理に努め、草勢の維持を図る。
- ④ トマトでは、日照不足により結実が不安定となりやすいため、ホルモン処理により確実に着果させる。

<花き>

- ① ベト病やうどんこ病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ② 日照不足による軟弱徒長を防ぐため、鉢間隔を広げたり、追肥等の適正な施肥管理に努め、草勢の維持を図る。
- ③ 大雨による冠水等を防ぐため、圃場やハウス周りに排水路を整備する。

<水稻>

- ① いもち病の発生がみられるほ場では、治療効果のある粉剤や水和剤等による防除を徹底する。
- ② 倒伏を防止し、機械収穫が早期に実施できるよう、降雨が続く場合は、ほ場の排水に努めるとともに、落水までの期間は間断灌漑を行う。
- ③ 収穫は、出穂期からの日平均気温の積算温度950~1100℃を目安に、ほ場ごとに黄化した籾の割合(85~90%)を確認し、適期に行う。
- ④ 穂発芽等が発生した場合は、全体の品質低下を防ぐために、健全なものと仕分けて収穫・調製を行う。

(3) 畜産

<飼料作物等>

- ① 飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。
- ② 降雨により畜舎内の湿度が上昇する場合は、換気や通風を適時実施するなど、畜舎内環境の改善を図り、疾病発生予防及び家畜のストレス低減に努める。